



専攻医・大学院生からのメッセージ

呼吸器内科シニアレジデント
2020年度初期研修修了
甘利ひかり先生



私は2年間の当センターでの初期研修を終え、2021年春より呼吸器内科に入局し2年目になります。

内科系の診療科にすすみたいとは考えていたものの、研修当初から呼吸器内科志望というわけではありませんでした。2年間の内科コースの研修では内科系診療科でバランスよく経験を積むことができ、また熱心な上級医からの指導を受けながら日々仲間と切磋琢磨していくなかで自分のやりたいことが見えてきたと思います。

初期研修期間を終えて後期研修先を選ぶなかで、私が引き続き当センターでの研修を希望した理由は、なんといっても当センターの雰囲気や診療科の垣根の低さが魅力的と感じたからです。初期研修期間を終えているとはいえ、まだまだ診療をしていくうえで疑問に思うことや悩むことは数多くあります。そんなときに他科の先生方にも気軽に質問をしたり、指導を受けることができる環境というのは本当にありがたく、自分が成長できる糧になると感じています。研修医のときから感じていたことですが、当センターには教育に熱心な指導医が多く、上級医が下の学年の医師の診療をフォローしフィードバックする基盤ができています。自分から学ぶ姿勢が大切なのはもちろんですが、自分だけでは解決できない臨床上の疑問をその場で指導頂けることは非常に心強いことです。

現在は呼吸器内科に入局し、内科専門医取得にむけて当センターでのローテーションの他に地域の病院での勤務などを行っています。地域の病院では自分が主治医として入院患者さんの受け持ち、治療方針や家族への説明などを基本的にすべて1人で行わなくてはなりません。苦勞する場面や悩むことも多いですが、そのたびに当センターで今まで学んできたことが生きていると実感しています。

私はまだまだ医師として未熟ですが、みなさんと一緒に成長できればと思います。

当センターでの研修に少しでも興味をもっていただければ嬉しいです。

外科系
博士課程2年目(2021年入学)
町田枝里華先生



大学5年次の臨床実習で消化器外科に興味を持ち、当センターの外科専門医コースでの研修を志望しました。外科専門医取得に必要な手術症例を積みながら、他科での研修もまんべんなく行うことができ、術前評価や周術期管理に必要な知識を身に付けることができました。出身地とも卒業大学の地とも異なるさいたままでの研修でしたが、派遣のようなものは一切なく、充実した初期研修であったと思います。

他施設での後期研修も検討しましたが、初期研修で熱心に指導してくださった先生方と共に働きたいとの思いが勝り、卒後3年目に一般・消化器外科へ入局しました。入局後は上部・下部消化管、肝胆膵、乳腺の臓器別チームのローテーションに加え、市中病院での研修の機会もいただき、数多くの手術症例を経験することができました。卒後5年目に外科専門医、卒後8年目に消化器外科専門医を取得しました。

外科医として手術や病棟管理、外来などの臨床業務に携わる日々は忙しくも非常に楽しい毎日でしたが、一方で大学病院に勤務する医師として一度腰を据えて学術的な研鑽を積みたいとの思いもあり、卒後8年目に自治医科大学大学院へ進学しました。現在は国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野で研究を行っています。研究テーマは大腸がんのゲノム解析に基づく治療効果判定/予後予測因子の同定です。大学院生活も1年以上が経過しましたが、最先端の研究機関で様々ながん種を専門とする先生方と共に活動させていただき、知識のアップデートや自身の研究を客観的・批判的に吟味することの重要性を痛感する毎日です。

当センターでは将来の志望科に沿ったバランスのよい初期研修が行えるのは勿論、大学院進学を含めた後期研修以降の進路についても様々なオプションを検討することができます。是非当センターでの研修を検討してみてください。お待ちしております。

泌尿器科専攻医(シニアレジデント)
2019年度初期研修修了
嘉指 公輔先生



2年間の初期研修を経て、継続して当センターで従事させていただくことになったのは、まずは診療科の垣根の低さであったと思います。

初期研修でお世話になった先生方には、コンサルテーションでも快く相談に乗ってくださり、時には進路の相談にも乗っていただきました。今回惜越ながらこの文章を書かせていただいているのも、消化器一般外科ローテーション中にお世話になった先生方のご推薦を頂いたという流れでした。専攻医として働く中で、専攻分野はもちろんな、その他の分野についても臨床的に悩むシーンは数多くあります。忙しい中でも気軽に相談に乗っていただける諸上級医の先生方の存在は、非常にありがたく、心強いものです。垣根の低さ故なのか、自身の専攻分野以外の知識にも明るい先生方も数多くいらっしゃいます。コンサルテーションを通して自身の専攻分野以外について日々勉強になることも、非常に面白い点だと感じます。

泌尿器科に限ったことではありませんが、若手に多くの機会を与える雰囲気があることも魅力の一つです。手厚いバックアップと、丁寧なフィードバックがあることで、独学による荒削りな知識や技術ではなく、ゴールドスタンダードを着実に身に付けられる環境があると思っています。他病院に勤務する大学の同期と比較して、着実に早期にかつ多くの貴重な症例を経験し、学ばせていただいていると自負しています。

このような環境だからこそ、多くの初期研修医がそのまま専攻医として勤務しています。私達の学年は17人が継続して勤務しています。共に切磋琢磨し、同じ困難や苦悩を乗り越えていた仲間達は、専攻医として各診療科に散らばった今でも、気軽に相談したり、お互いの存在を意識しモチベーションになったりするよきライバルでもあります。

初期研修を選択する際に、専門研修のイメージをするのは難しい事かもしれませんが、皆さんの進路選択の参考になれば幸いです。一緒に診療に当たれることを楽しみにしています。